

「自治会ニュースコンクール2012」

講評

(2013/03/16 審査委員長)

本コンクールは今回、奈良県の協力も得て、対象地域を生駒郡、北葛城郡から、香芝市、葛城市、磯城郡にまで広げた。応募があったのは1市6町の19自治会・大字。うち、前年度に実施した生駒、北葛城両郡から2年連続の応募は9自治会・大字であった。自らのニュースを少しでも良いものにしたいという意欲が感じられ、応募を続けられたことに敬意を表したい。

今回の応募ニュースもページ数、カラーの有無など多種多様であったが、それぞれに持ち味を見せていた。

先の東日本大震災により、私たちは地域情報を共有する手段としての紙媒体の重要性を再認識させられた。住民の意識、マンパワー、費用などの問題から発行していないところも多いが、このコンクールがきっかけとなって発行が増えていくことを期待したい。また、自治会ニュースの性格やその意義を考える時、回覧しているところはできるだけ全戸配布を目指してほしい。

選考は、各審査委員の評価を総合し、以下のとおりとした。

なお、賞まであと一步というニュースがいくつかあったことを付記しておきたい。

また、総合評価は別として、印象に残るニュースもあった。

その中で「小柳だより」(三宅町・初応募)はA4判表裏の2ページとコンパクトながら、情報を簡潔に手際よくまとめ、裏面の大半を便利で見やすい1カ月行事予定表にしている。住民のニーズをくみ取りつつ、38年間発行してきた中で行き着いた一つのスタイルであるかもしれないと感じた。

「城古ニュース」(河合町・2年連続応募)はキメ細かさには欠けるが、祭事を中心に住民のカラー写真を多用している。古くからの土地の人々が住む地域であり、日常生活についての情報はさほど載せなくていいのかもしれないと考えさせられた。だとすれば、常に祭りや年中行事を地域の“絆”の軸として大展開しているのも理解できる。

実行委員会会長賞（最優秀賞）

「まみがおか」（香芝市）

見出し、レイアウトとも洗練され、掲載記事の選択、読みやすさ、企画性、どれをとっても素晴らしく、一般のミニコミ紙にもひけを取らない出来ばえ。

トップページで各ページの内容を知らせ、行事予定や掃除当番を最終面に固定してハコ組みにするなど、工夫に溢れている。何よりも、地域に対する愛着と絆の醸成に心を砕く姿勢が如実であり、クイズを採り入れているのも、その表れと言えよう。モノクロなのにカラー用紙を使って視覚的に読みやすくしたアイデアも光る。

自治会でホームページを持ち、バックナンバーをアップしているのも注目されよう。

毎日新聞社賞

「泉台ニュース」（河合町）

前回最優秀。担当者が毎年変わっても質を保っているのは、自治会発足時（1969年）から毎月欠かすことなく発行し続けてきた歴史の積み重ねがあるからだろう。

一見地味に見えるが、内容は極めて豊富。それでも、記事の配置や写真などを使ったレイアウトによって煩雑さを感じさせない。何よりも、担当者の手作り感が温かい印象を与える。毎号、70歳以上を対象とした「ボランティア散髪サロン」のお知らせがある。マフラーの落とし物情報まである。それだけ、住民の期待に応えているということであろう。

河合町総代自治会長会賞

「久美ヶ丘かわらばん」（河合町）

前回最優秀。そのビジュアルで読みやすい紙面は既に定評のあるところだが、レイアウトは意外にシンプルであり、写真やイラストを巧みに配してメリハリをつけている。大きくした活字ポイントは、情報量との兼ね合いから、ある意味冒険的ではあるが、見事に成功させている。とにかく読んでもらおうという気持ちが伝わってくる。

住民に必要で役に立つ情報の選択も良く、自治会活動への親しみと参加意欲を持ってもらうことに心を砕いていることがうかがえる。

河合町長賞

「石見だより」（三宅町）

すっきりしていて読みやすく、しかも親しみを覚える紙面。それは、見出しのカットやカラーの使い方によるところも大きい。センスの良さがうかがえる。

内容は、自治会ニュースの役割をはっきり意識したものになっている。自主防災、防犯への取り組みに力を入れているが、避難所体験訓練特集は好企画。Q & Aの形を取って分かりやすく、読んで頭に残りやすくしているのには感心させられる。

「勢野北1・2丁目自治会便り」(三郷町)

カラーの使い方がうまい。特に写真が綺麗で、イラストも楽しい。ゴシック体の文字と行間幅、それに空白のバランスが良い。内容も自治会活動や行事の結果、今後の予定を過不足なく押さえ、洗練された組み立てになっている。

これまでは5軒ごとに回覧し、その後自治会館に掲示していたが、全戸配布を目指し、内容、レイアウト等を検討中とのことで、期待したい。

特別賞 = 審査委員長賞

「青葉台新報」(香芝市)

A3判で2ページ。地域の高齢化に対応して文字を大きくし、行間も広く取っている。情報量が多いとはえないが、写真やイラストを使い、丁寧な作りで好感が持てる。見出しのカットを一工夫すれば、さらに読みやすくなるだろう。

毎月発行しているのに担当者は1人で、持続性、質の維持が気になる。

「高塚台二丁目ニュース」(河合町)

しっかりした作りである。トップページの冒頭に「今後の予定」を固定配置しており、住民には便利だろう。見出しも奇をてらわず、それが却って読みやすくしている。民生・児童委員と包括支援センター職員を大きく写真付きで紹介しているのがユニーク。

編集の仕方に工夫を凝らせば、さらにグレードアップが望める。

「香芝 旭ヶ丘」(香芝市)

カラー写真を多く使い、親しみやすさ、読みやすさを心がけている。記事の組み方にも新しさがある。大きな催しがない時の紙面づくりに、もう一工夫欲しいところ。

NT祭への協賛企業のカラーロゴを2ページの見開きで掲載しているのには驚かされた。よくもこれだけ集められたと思う。日頃の自治会の活動ぶりがしのばれる。

「片岡台1丁目自治会便り」(上牧町)

A3判で2ページ。内容は堅実。自治会でのそれぞれの担当の自己紹介や丁寧な会計報告など、自治会運営に努力していることがうかがえる。

記事の見出しと本文にメリハリをつければ、より読みやすくなる。写真やカットの使い方に工夫を望みたい。担当者が1人というのは寂しい。

以上